

第 12 章

調査結果のとりまとめ

第1 介護保険サービス

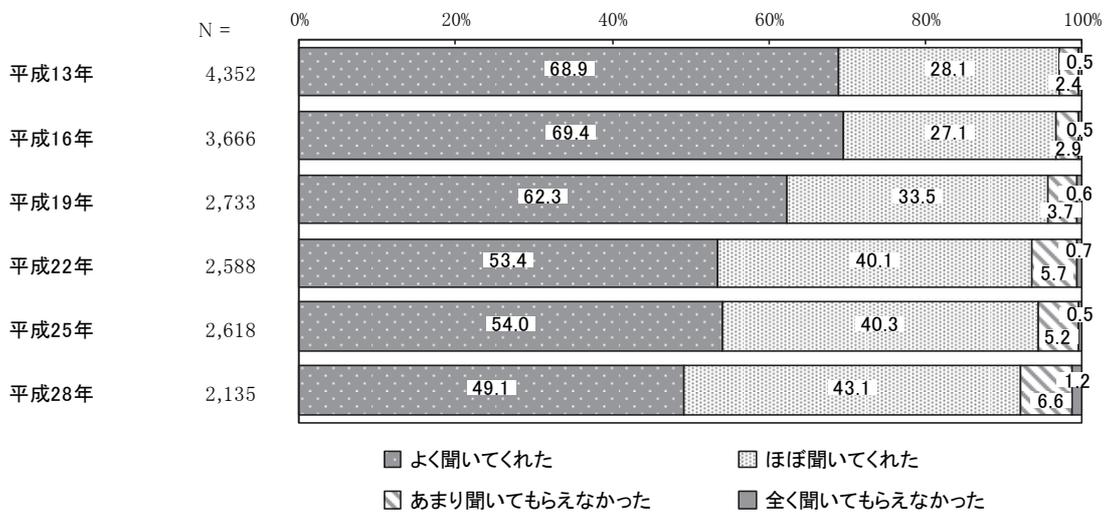
1. 認定調査と要介護認定

(1) 認定調査

「認定調査員は、本人や家族の話をよく聞いてくれましたか」という設問に対しては、「よく聞いてくれた」が49.1%と最も高く、次いで「ほぼ聞いてくれた」が43.1%となっており、これらを合わせた“認定調査員は話を聞いてくれたと感じている人”が約9割（92.2%）を占めています。

経年比較でみると、「よく聞いてくれた」が減少傾向にあります。

【認定調査員は本人や家族の話をよく聞いてくれたか（居宅・過去の調査との比較）】



(2) 要介護認定

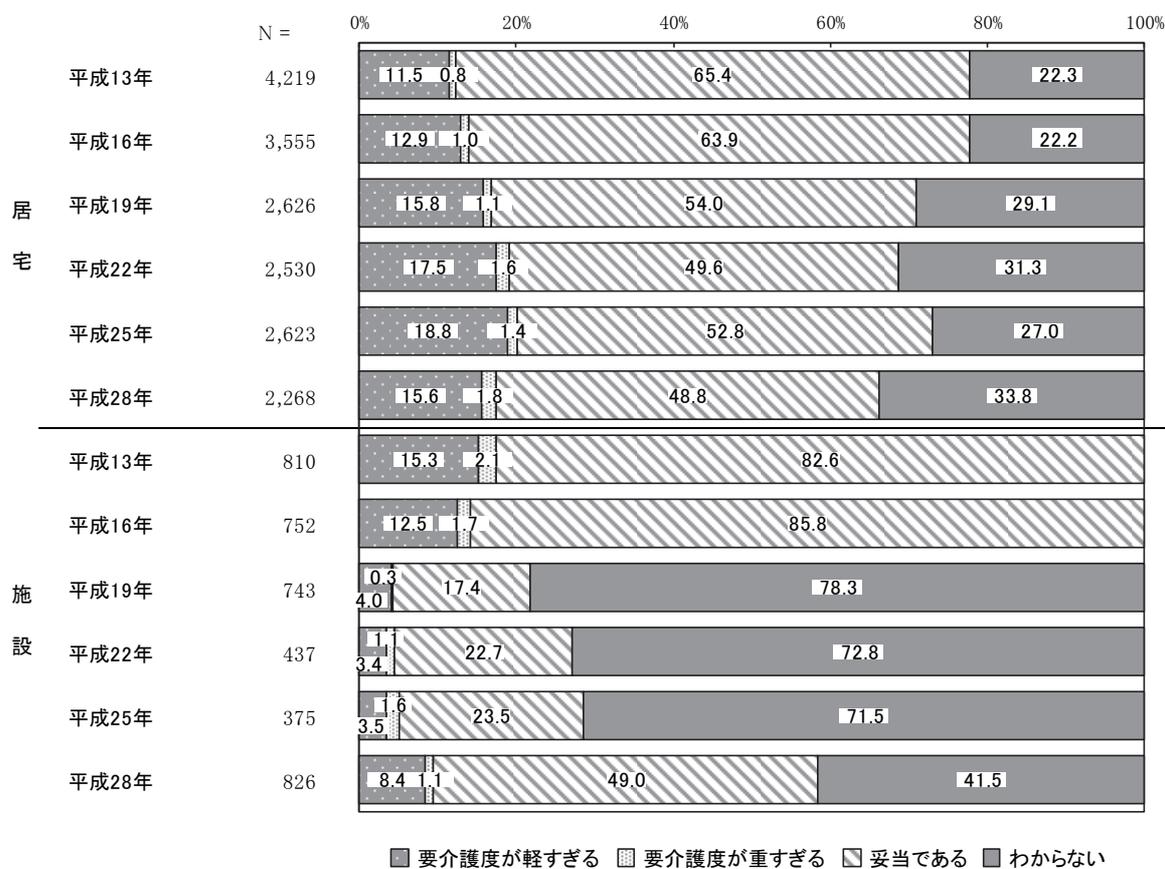
居宅の要介護認定に対する評価としては、「要介護度が軽すぎる」が15.6%となっているのに対し、「要介護が重すぎる」が1.8%とごくわずかとなっています。

施設の要介護認定に対する評価としては、「要介護度が軽すぎる」が8.4%となっているのに対し、「要介護が重すぎる」が1.1%とごくわずかとなっています。

前回調査と比較すると、施設では、「妥当である」が約5割と倍増しています。

上記の結果から、要介護認定に対する評価は概ね肯定的意見が多く、公平な要介護認定がなされていると考えられます。

【要介護認定に対する満足度（過去の調査との比較）】



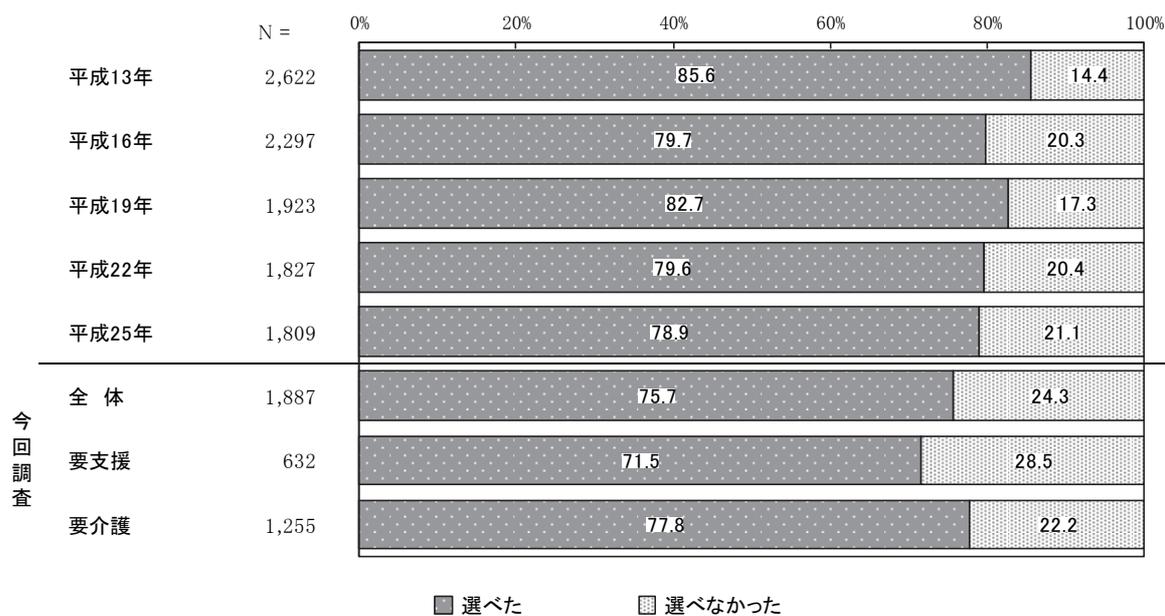
2. 居宅サービス

(1) サービスの利用状況

必要なサービスの選択については、「選べた」が75.7%、「選べなかった」が24.3%となっています。

要支援認定者では要介護認定者に比べ、「選べた」が6.3ポイント低くなっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

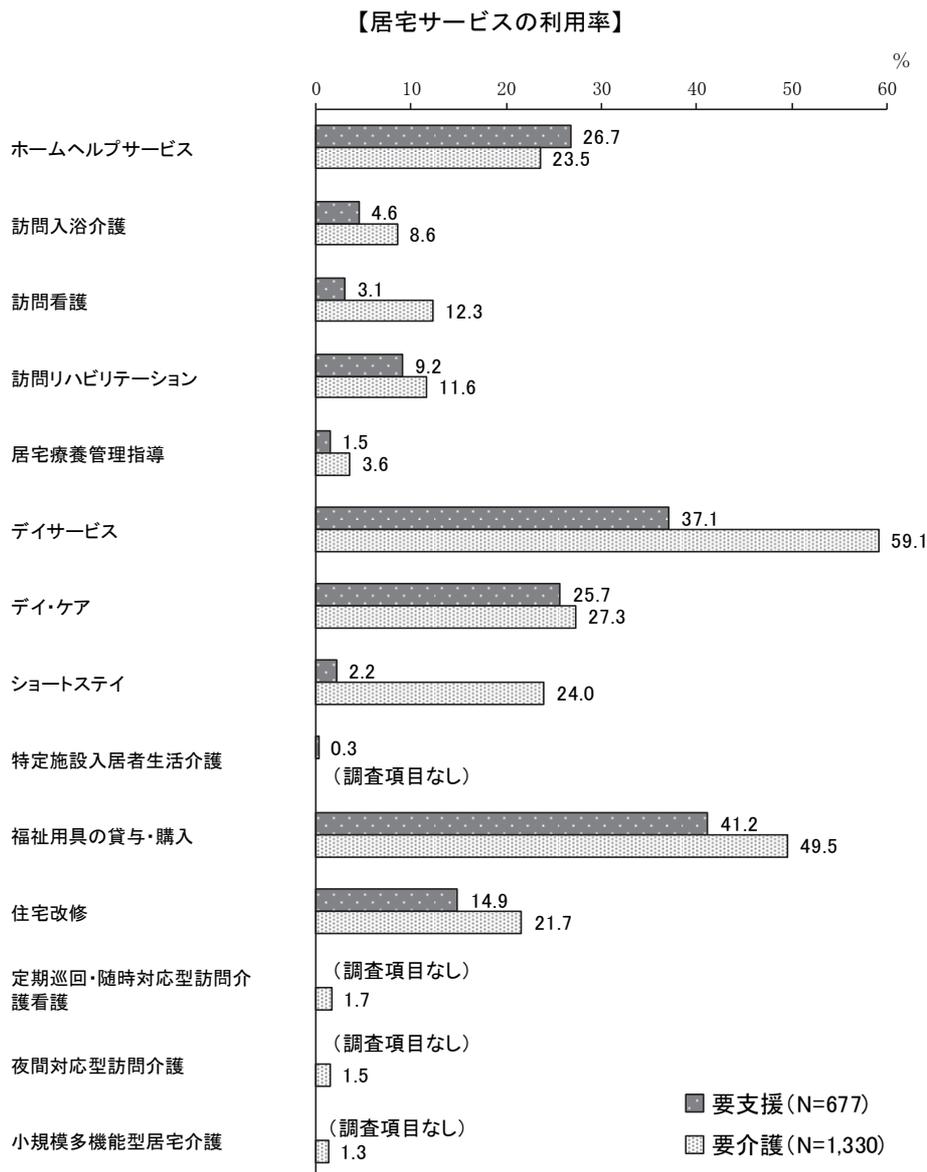
【必要なだけ居宅サービスを選べたか（居宅・過去の調査との比較）】



居宅サービスの利用率をみると、要支援認定者では「福祉用具の貸与・購入」(41.2%)が最も高く、次いで「デイサービス」(37.1%)、「ホームヘルプサービス」(26.7%)、「デイ・ケア」(25.7%)となっています。

要介護認定者では「デイサービス」(59.1%)が最も高く、次いで「福祉用具の貸与・購入」(49.5%)、「デイ・ケア」(27.3%)、「ショートステイ」(24.0%)となっています。

要介護認定者では要支援認定者に比べ、「デイサービス」「ショートステイ」「住宅改修」が高くなっています。また、要介護認定者では通所系サービスの利用が高いことがうかがえます。

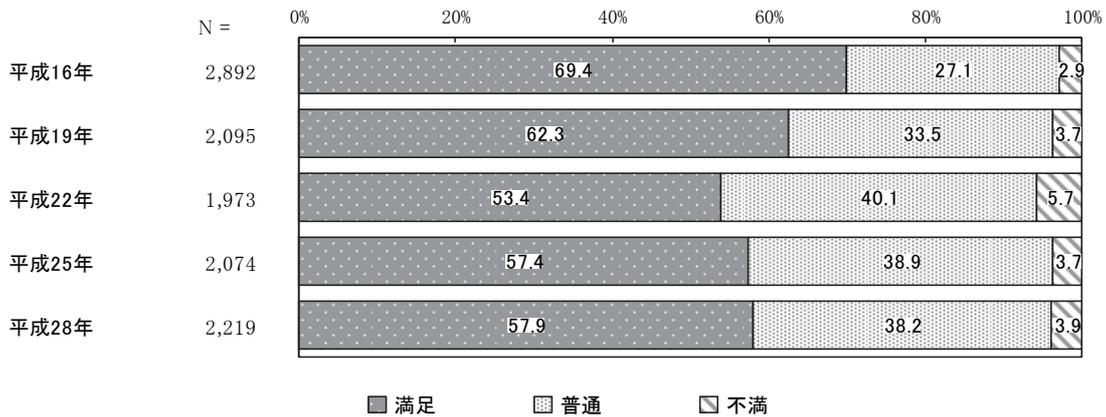


(2) 居宅サービスの満足度

居宅サービスの満足度については、「満足」が57.9%、「不満」3.9%とごくわずかとなっており、サービスに対する満足度は高くなっています。

経年比較でみると、「満足」が平成22年までは減少傾向にあったものの、平成25年以降は増加傾向にあります。

【居宅サービスの満足度（居宅・過去の調査との比較）】

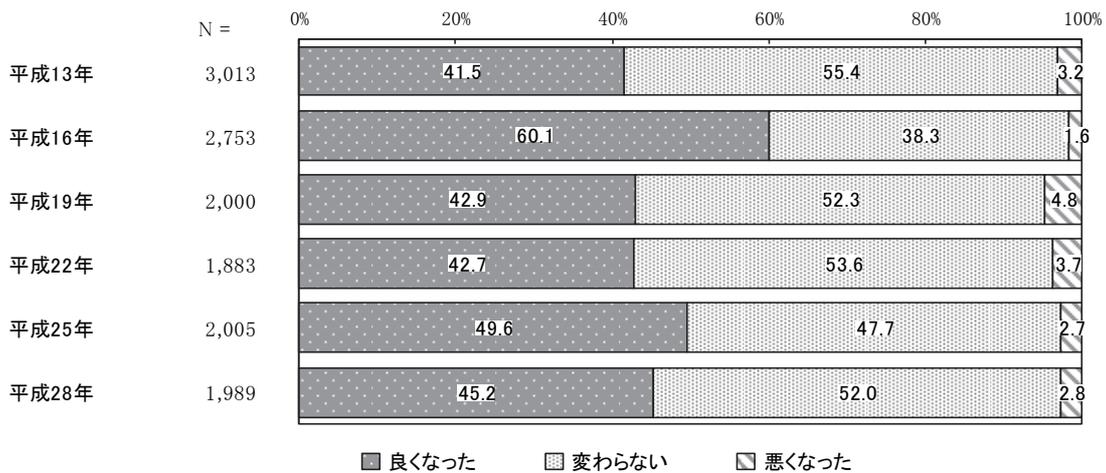


(3) 本人の身体的・精神的変化

居宅サービス利用による身体的・精神的変化については、「良くなった」が45.2%、「悪くなった」が2.8%とごくわずかとなっており、多くの居宅サービス利用者がサービスを利用することにより身体的・精神的にも軽減されている状況がうかがえます。

経年比較でみると、大きな変化はみられません。

【介護サービス利用による本人の身体的・精神的変化（居宅・過去の調査との比較）】



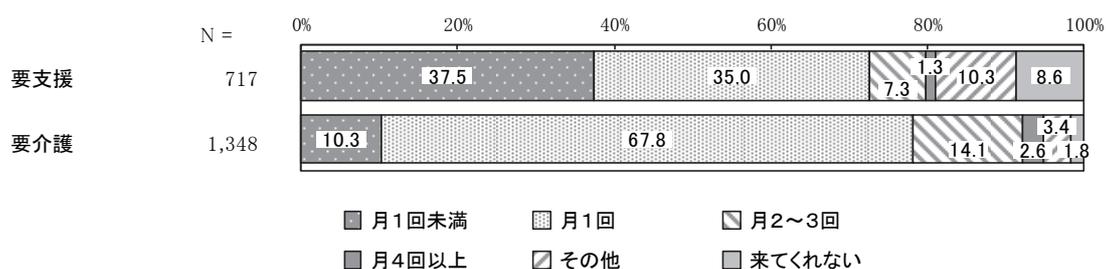
3. サービス計画

(1) サービス計画作成者の訪問頻度

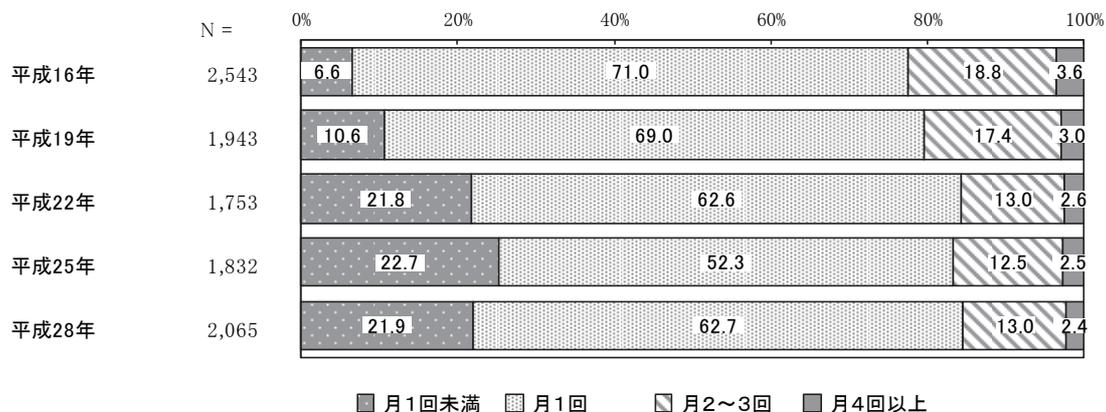
介護サービス計画および介護予防サービス計画担当者のサービス利用者宅への訪問頻度については、要支援認定者で「月1回未満」が37.5%と最も高く、次いで「月1回」が35.0%となっています。要介護認定者で、「月1回」が67.8%と最も高くなっています。一方、「来てくれない」は要支援認定者で8.6%、要介護認定者で1.8%となっています。

経年比較でみると、前回調査と特に大きな変化はみられません。

【サービス計画作成者の訪問頻度】



【サービス計画作成者の訪問頻度（過去の調査との比較）】



(2) サービス計画等の満足度

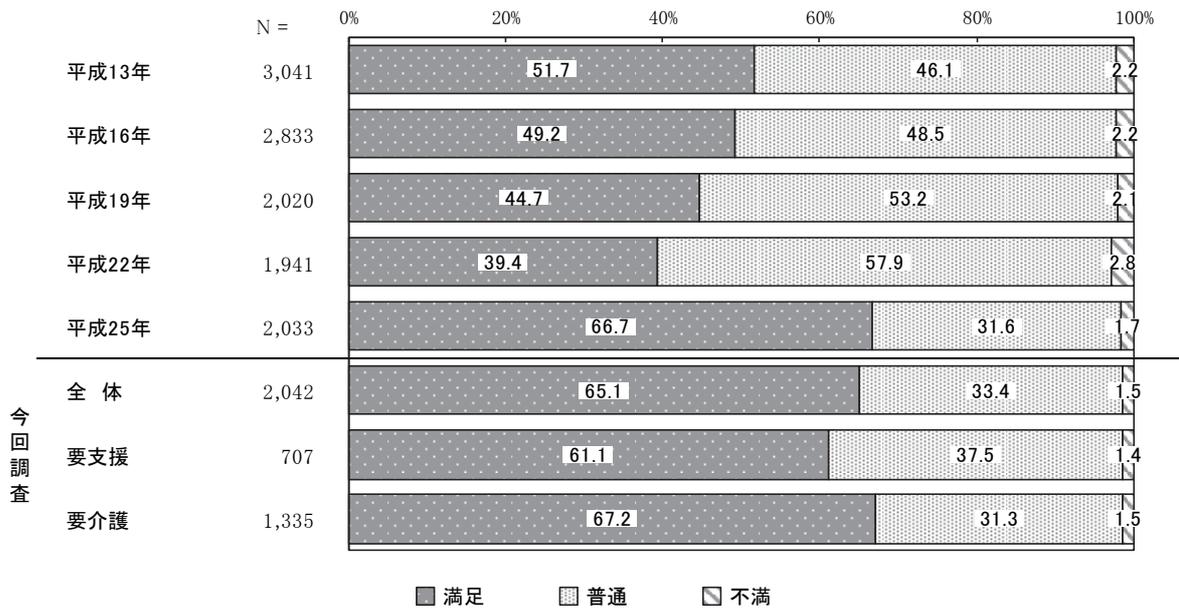
居宅サービス利用者のサービス計画に対する満足度については、「満足」が65.1%となっています。要介護認定者では要支援認定者に比べ、「満足」が6.1ポイント高くなっています。

経年比較でみると、前回調査と大きな変化はみられません。

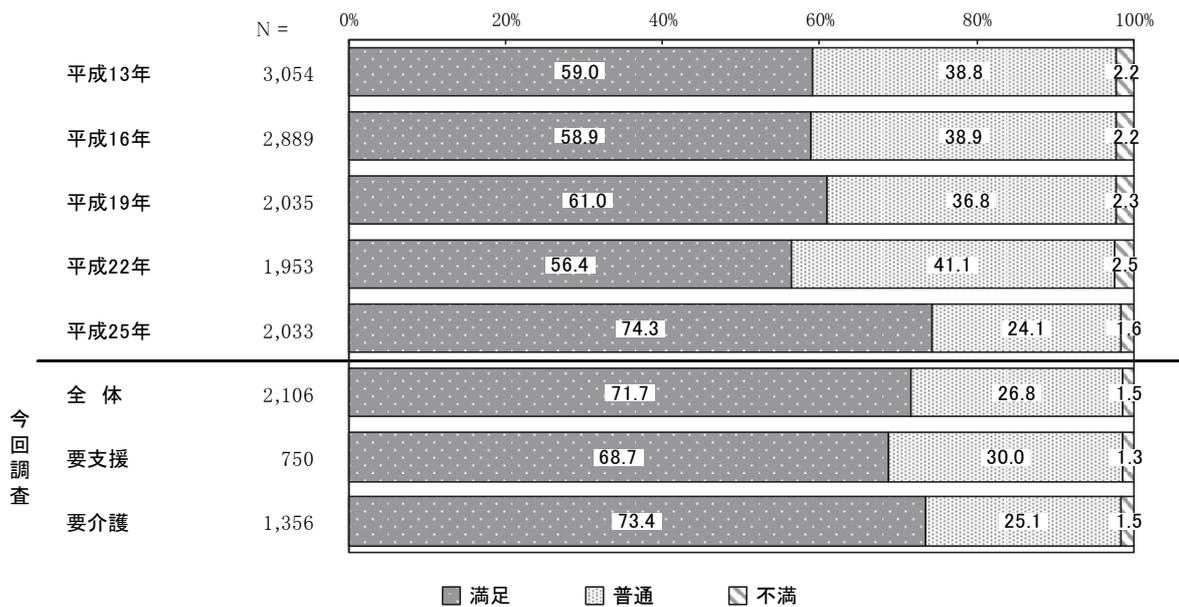
居宅サービス利用者のサービス計画作成者の対応に対する満足度については、「満足」が71.7%となっています。

経年比較でみると、前回調査と大きな変化はみられません。

【サービス計画の満足度（居宅・過去の調査との比較）】



【サービス計画作成者に対する満足度（居宅・過去の調査との比較）】



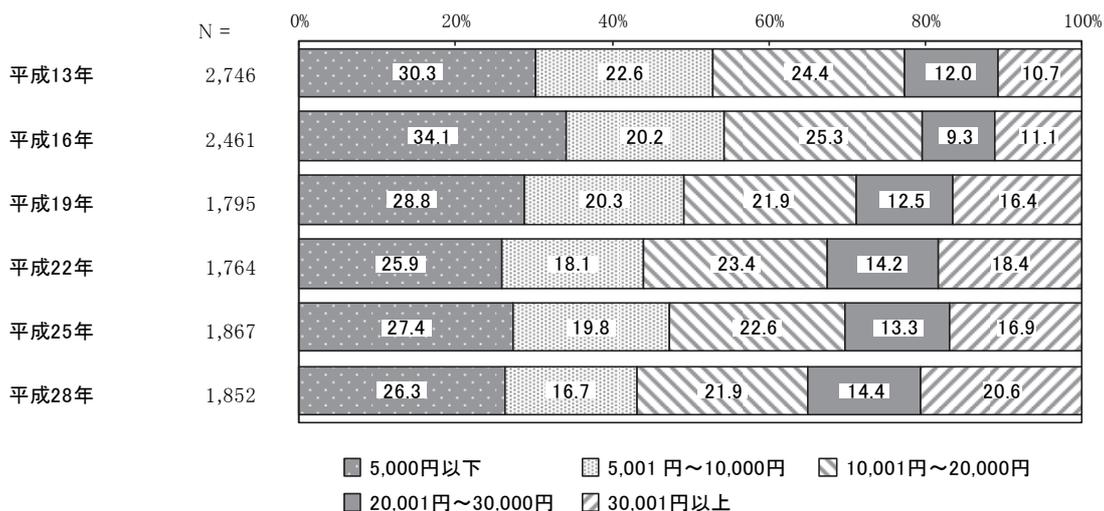
4. 利用者負担と介護保険料

(1) 利用者負担額

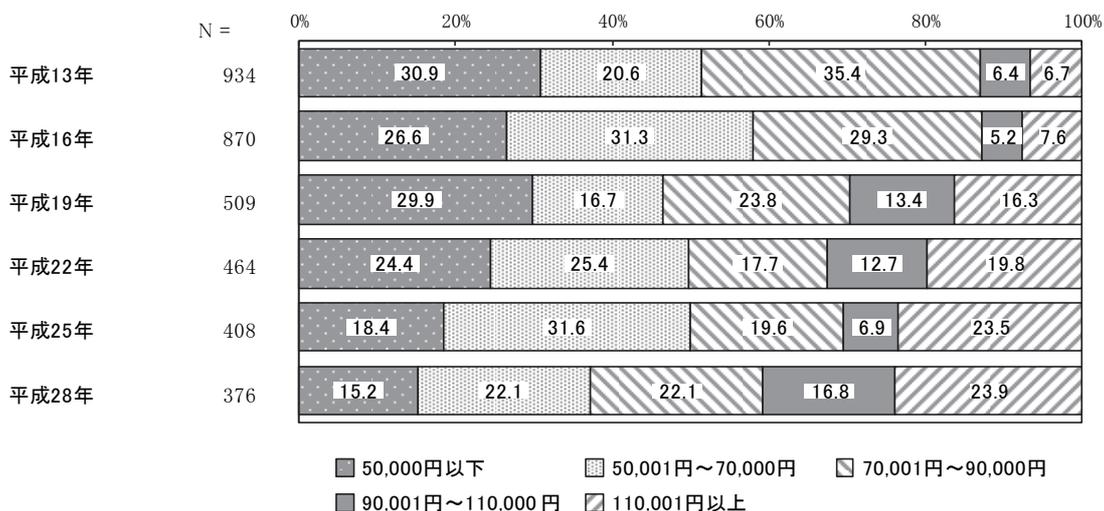
1か月分の利用者負担額は、居宅サービス利用者では、「5,000円以下」が、介護保険施設入所者では、「110,001円以上」が最も多くなっています。

経年比較でみると、前回調査に比べて、介護保険施設入所者では、「90,001円～110,000円」が増加し、「50,001円～70,000円」が減少しています。

【1か月分の利用者負担額（居宅サービス利用者・過去の調査との比較）】



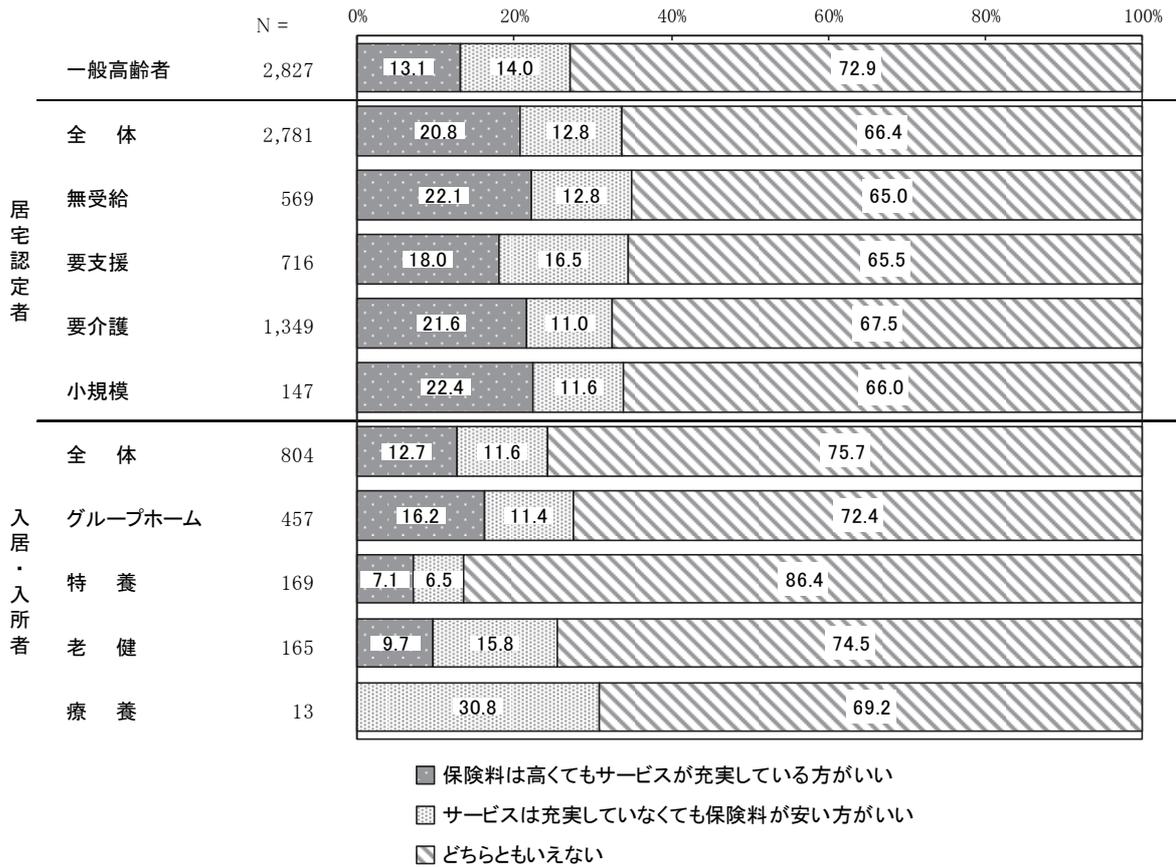
【1か月分の利用者負担額（介護保険施設入所者・過去の調査との比較）】



(2) 介護サービスの水準と保険料について

介護サービスの充実と保険料については、居宅認定者や入居・入所者では全体として「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が「サービスは充実していても保険料が安い方がいい」を上回っています。中でも、要介護、小規模利用者では、「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が「サービスは充実していても保険料が安い方がいい」を10ポイント以上上回っています。

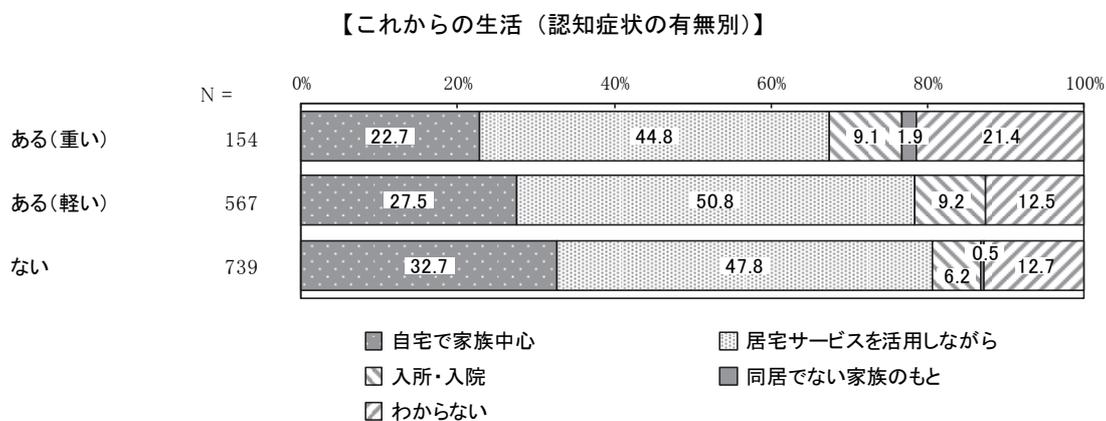
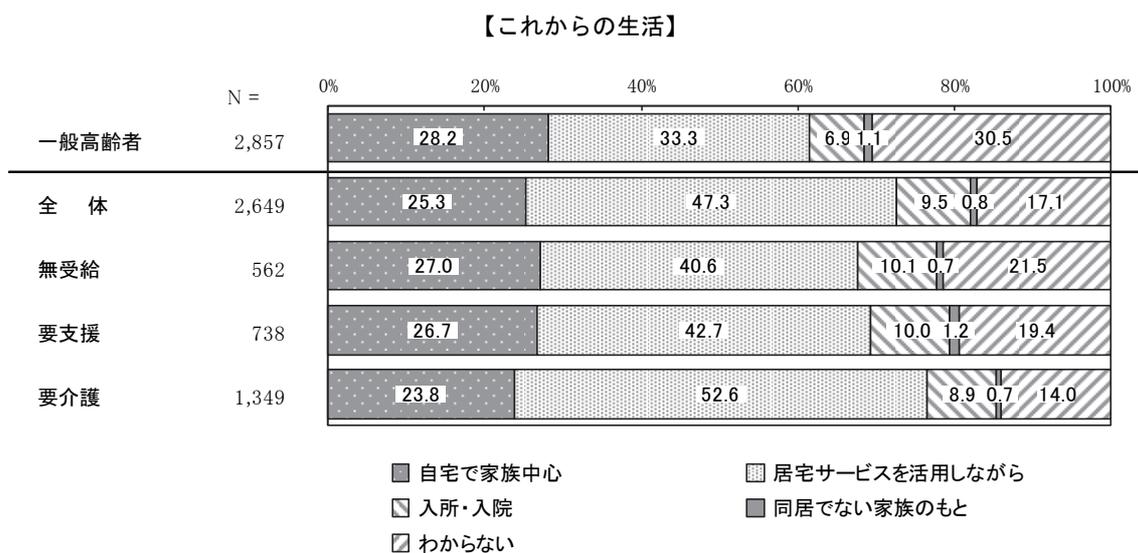
【介護サービスの水準と保険料について】



5. これからの生活

これからの生活については、すべての種類別で「居宅サービスを活用しながら」が最も高く、次いで「自宅で家族中心」となっています。特に、要介護認定者で「居宅サービスを活用しながら」が5割以上と高くなっています。

認知症状別にみると、認知症状の軽い人の介護者で、「居宅サービスを活用しながら」が5割以上と高く、認知症状がない人の介護者では「自宅で家族中心」が3割以上と高くなっています。



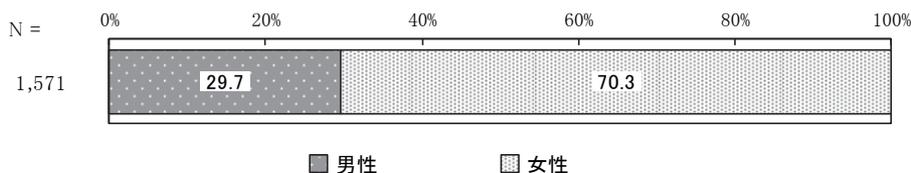
6. 介護者

(1) 主な介護者

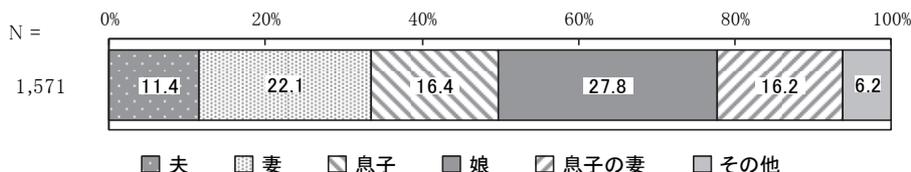
居宅の主な介護者については、「娘」が 27.8%と最も高く、次いで「妻」が 22.1%、「息子」が 16.4%となっており、性別でみると、女性が 70.3%と圧倒的に多くなっています。

主な介護者について、過去 9 回行った調査と比較すると、「妻」や「息子の妻」は減少傾向となっているのに対し、「娘」「息子」は増加傾向が続いています。

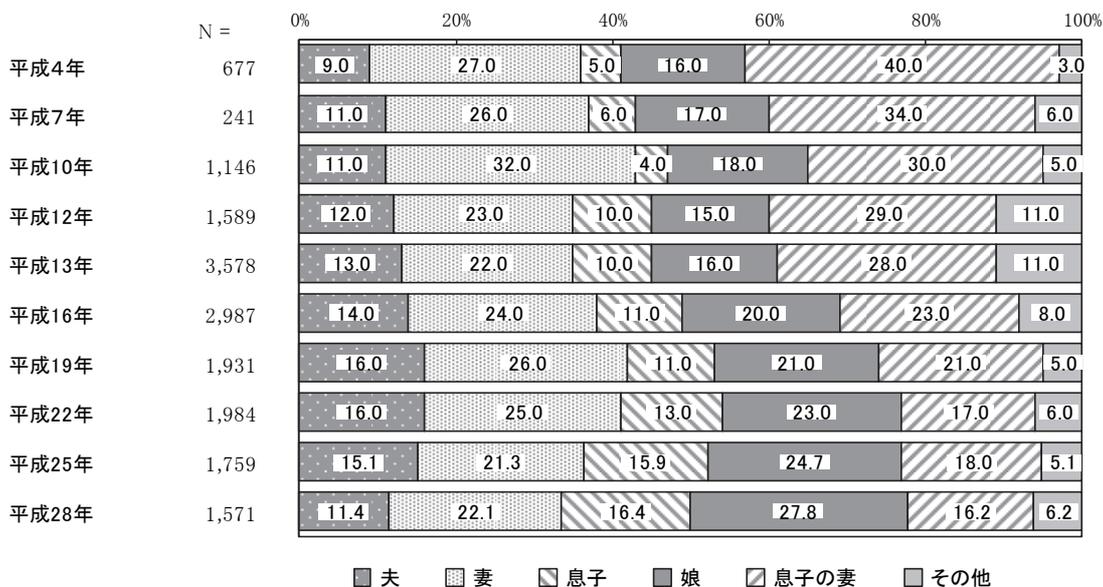
【主な介護者の性別】



【主な介護者の関係】



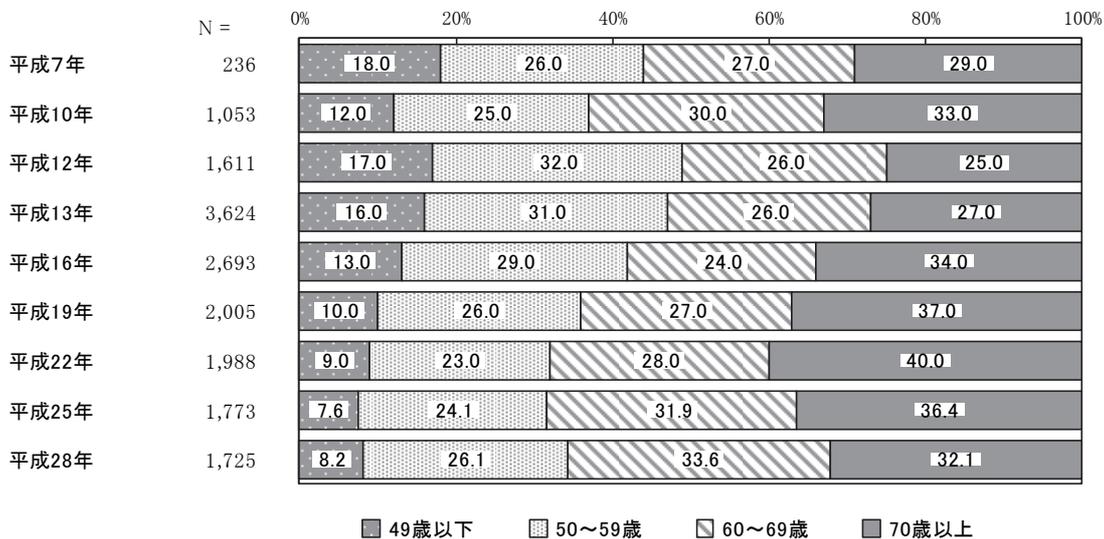
【主な介護者（過去の調査との比較）】



(2) 主な介護者の年齢

居宅の介護者の年齢については、70歳以上の介護者が32.1%となっており、約3人に1人は介護者も高齢者である老老介護世帯となっています。

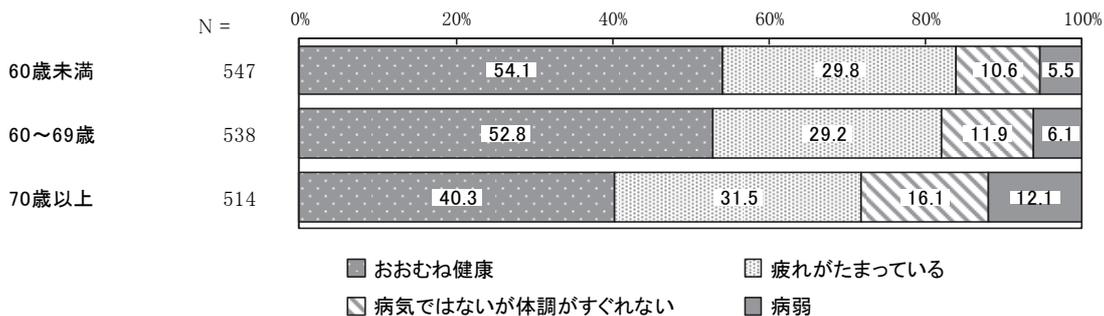
【主な介護者の年齢（過去の調査との比較）】



(3) 主な介護者の健康状態

主な介護者の健康状態を年齢別で見ると、70歳以上で「おおむね健康」が約4割と低くなっています。

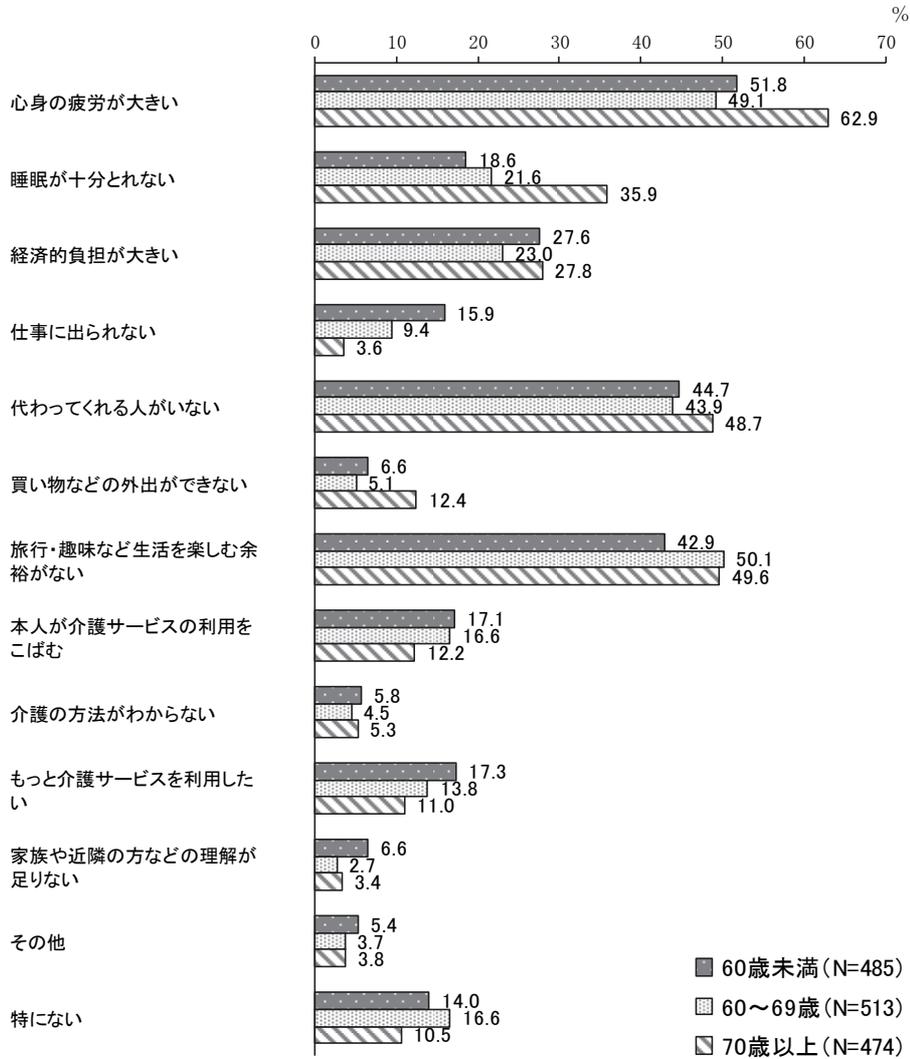
【介護者の健康状態（介護者の年齢別）】



(4) 介護をするうえで困っていること

介護するうえで困っていることを年齢別で見ると、70歳以上がほとんどの項目で比較的高くなっており、中でも「心身の疲労が大きい」「睡眠が十分とれない」などでは、他の世代と比べ10ポイント以上の差がみられます。

【介護するうえで困っていること（介護者の年齢別）】



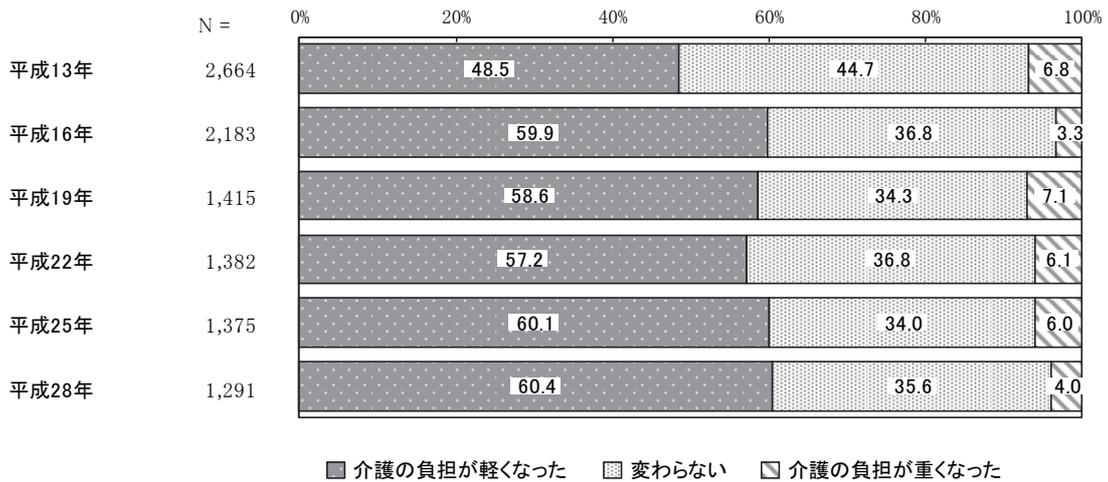
(5) 介護負担の変化

介護者の精神的・肉体的な介護負担の変化については、「介護の負担が軽くなった」が60.4%、「変わらない」が35.6%、「介護の負担が重くなった」が4.0%となっています。

経年比較でみると、大きな変化はみられません。

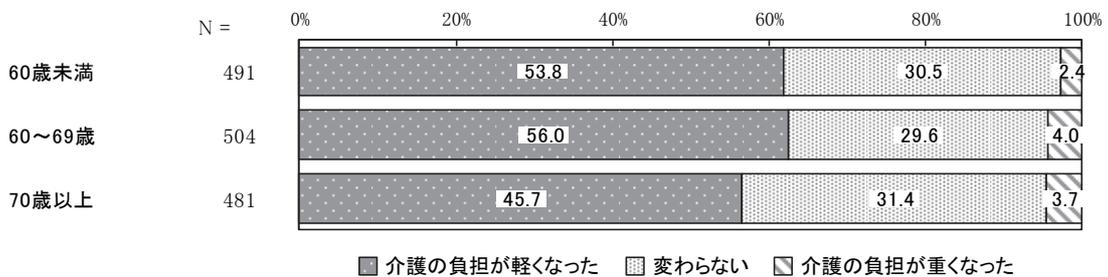
介護者の年齢別でみると、「介護の負担が軽くなった」が、70歳以上に比べて70歳未満で高くなっており、70歳以上の介護者世帯では介護の負担感が高いことがうかがえます。

【介護者の負担の変化（過去の調査との比較）】



■ 介護の負担が軽くなった ■ 変わらない ■ 介護の負担が重くなった

【介護者の負担の変化（介護者の年齢別）】



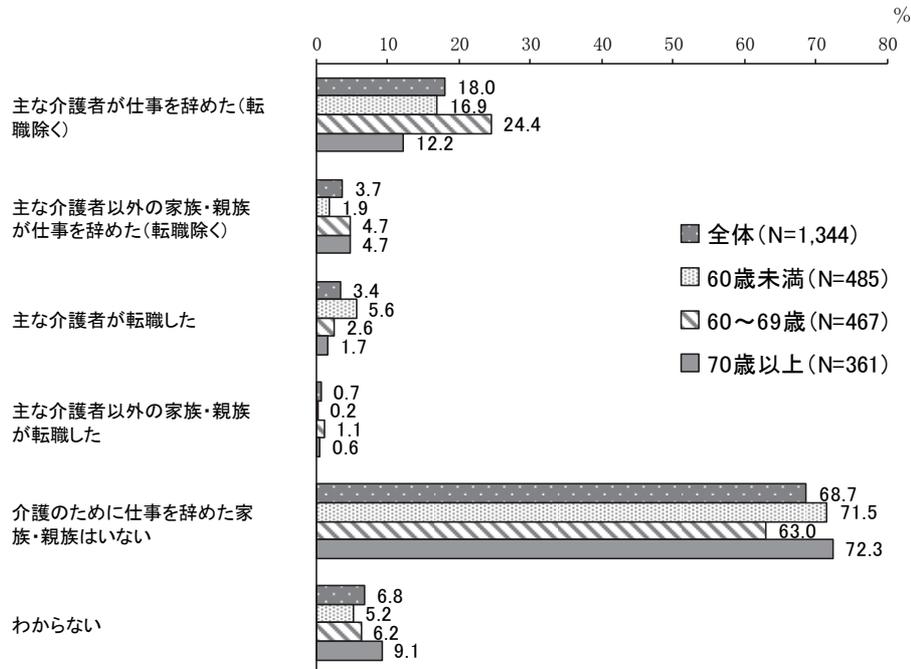
■ 介護の負担が軽くなった ■ 変わらない ■ 介護の負担が重くなった

(6) 介護のための離職状況

介護のための離職状況については、家族・親族が離職や転職をしたことがある人が24.5%となっています。

年齢別にみると、60～69歳で「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が24.4%と約4人に1人と高くなっています。

【介護のための離職状況（介護者の年齢別）】

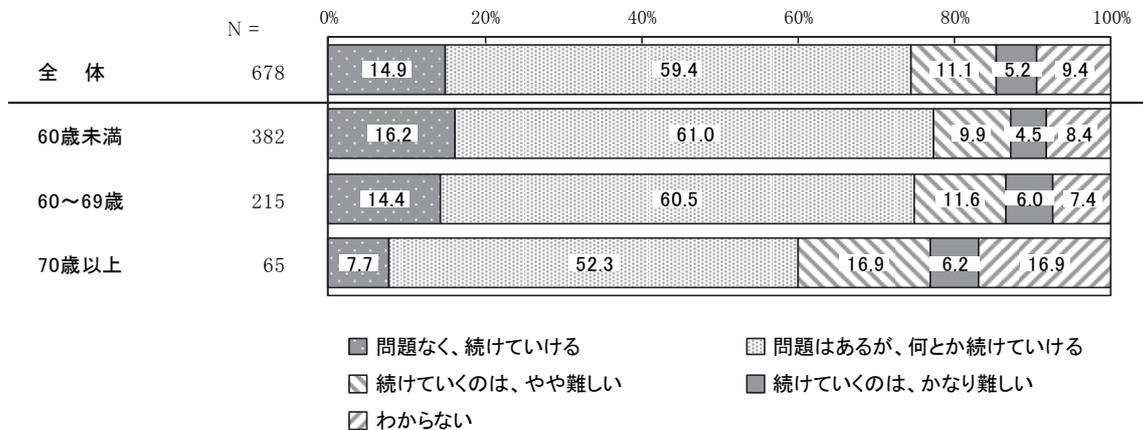


(7) 働きながらの介護継続

働きながらの介護継続については、“難しい”が16.3%（「続けていくのは、かなり難しい」(5.2%) + 「続けていくのは、やや難しい」(11.1%)）となっています。

年齢別にみると、70歳以上で“難しい”が23.1%と約4人に1人と高くなっています。

【働きながらの介護継続（介護者の年齢別）】



第2 介護保険サービス以外

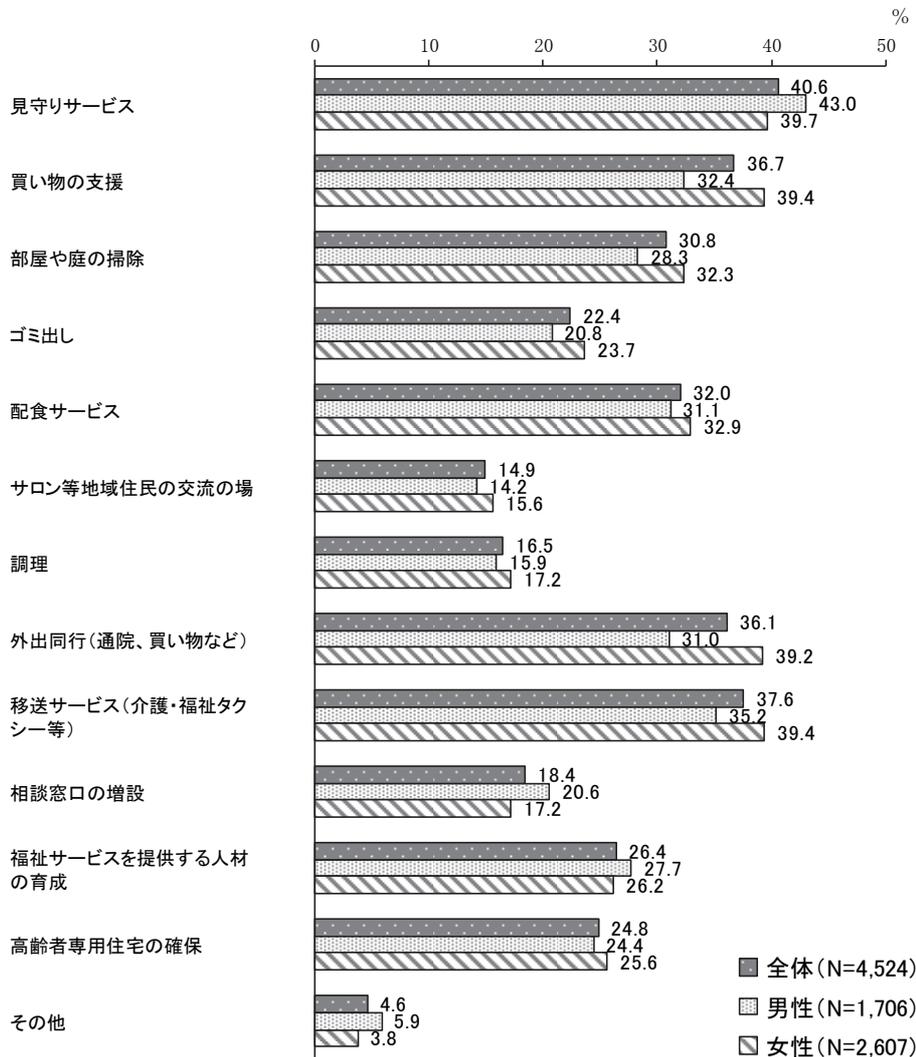
1. 介護予防事業

(1) 高齢者世帯が自立した日常生活を営むうえで必要な支援・サービス

高齢者世帯が自立した日常生活を営むうえで必要な支援・サービスについては、男女とも「見守りサービス」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「買い物の支援」が上位3項目としてあげられています。

性別でみると、女性では男性に比べ「買い物の支援」「外出同行（通院、買い物など）」が高くなっています。

【高齢者世帯が自立した日常生活を営むうえで必要な支援・サービス】



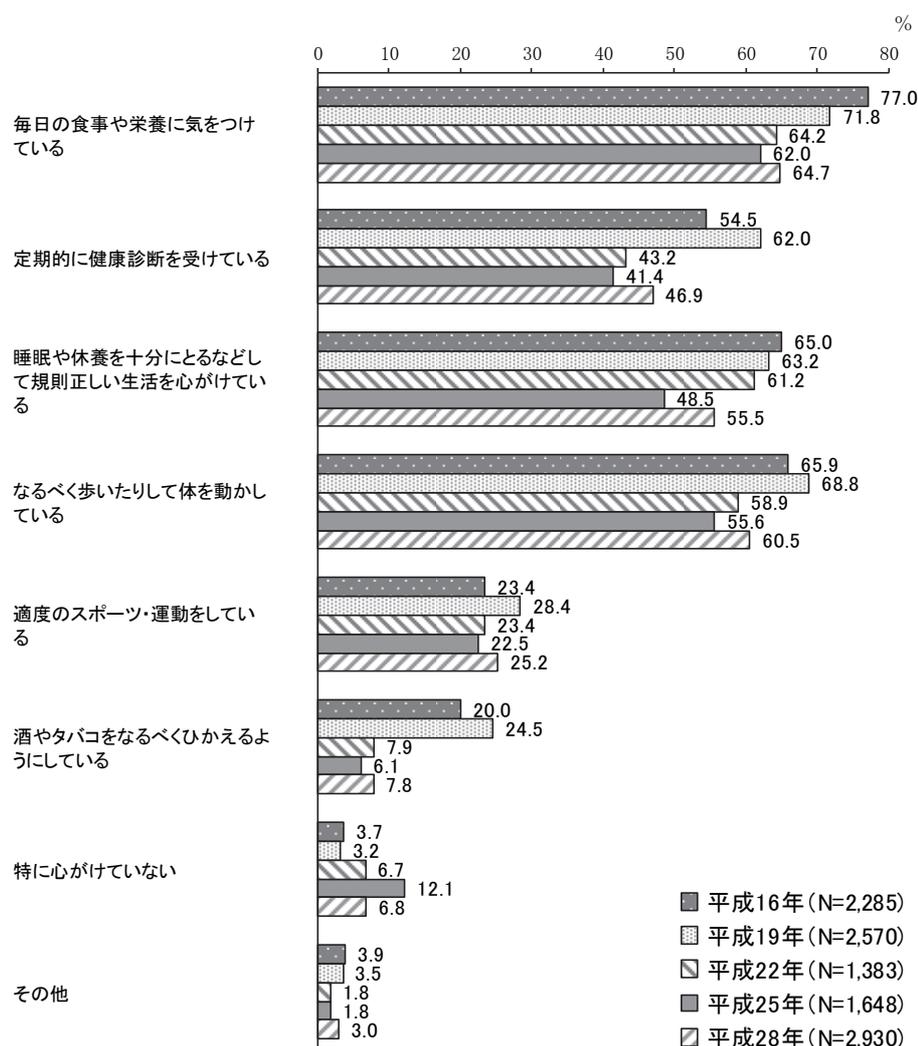
2. 健康意識

(1) 健康について心がけていること

一般高齢者の健康について心がけていることとしては、「毎日の食事や栄養に気をつけている」が64.7%と最も高く、次いで「なるべく歩いたり体を動かしている」が60.5%、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」が55.5%、「定期的に健康診断を受けている」が46.9%となっています。

前回調査と比較すると「特に心がけていない」は5.3ポイント減少している一方で、それ以外の項目すべてが高くなっています。

【健康について心がけていること（一般高齢者・過去の調査との比較）】

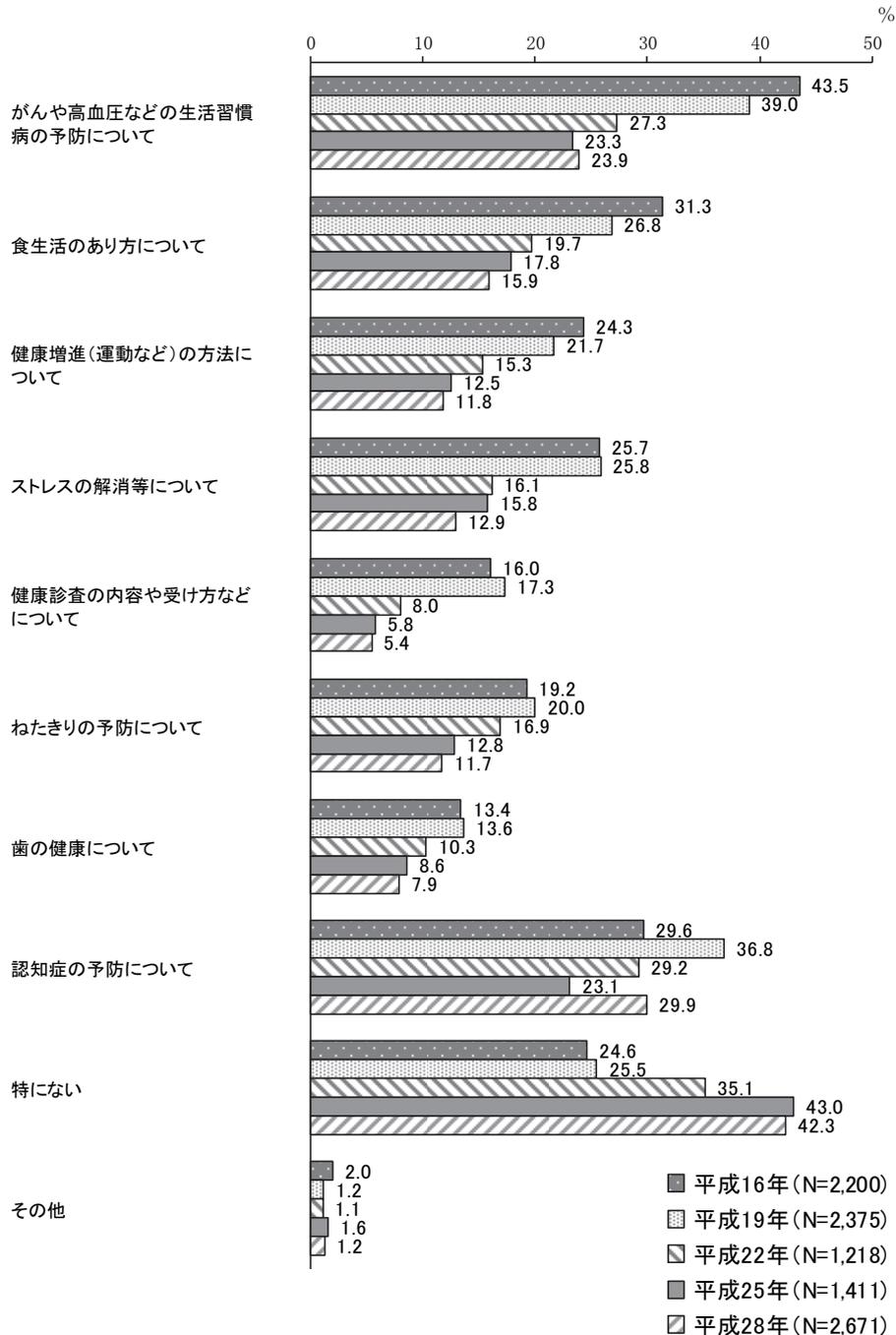


(2) 健康について知りたいこと

一般高齢者の健康について知りたいこととしては、「認知症の予防について」(29.9%)や「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」(23.9%)が高くなっています。一方、「特にない」が42.3%となっています。

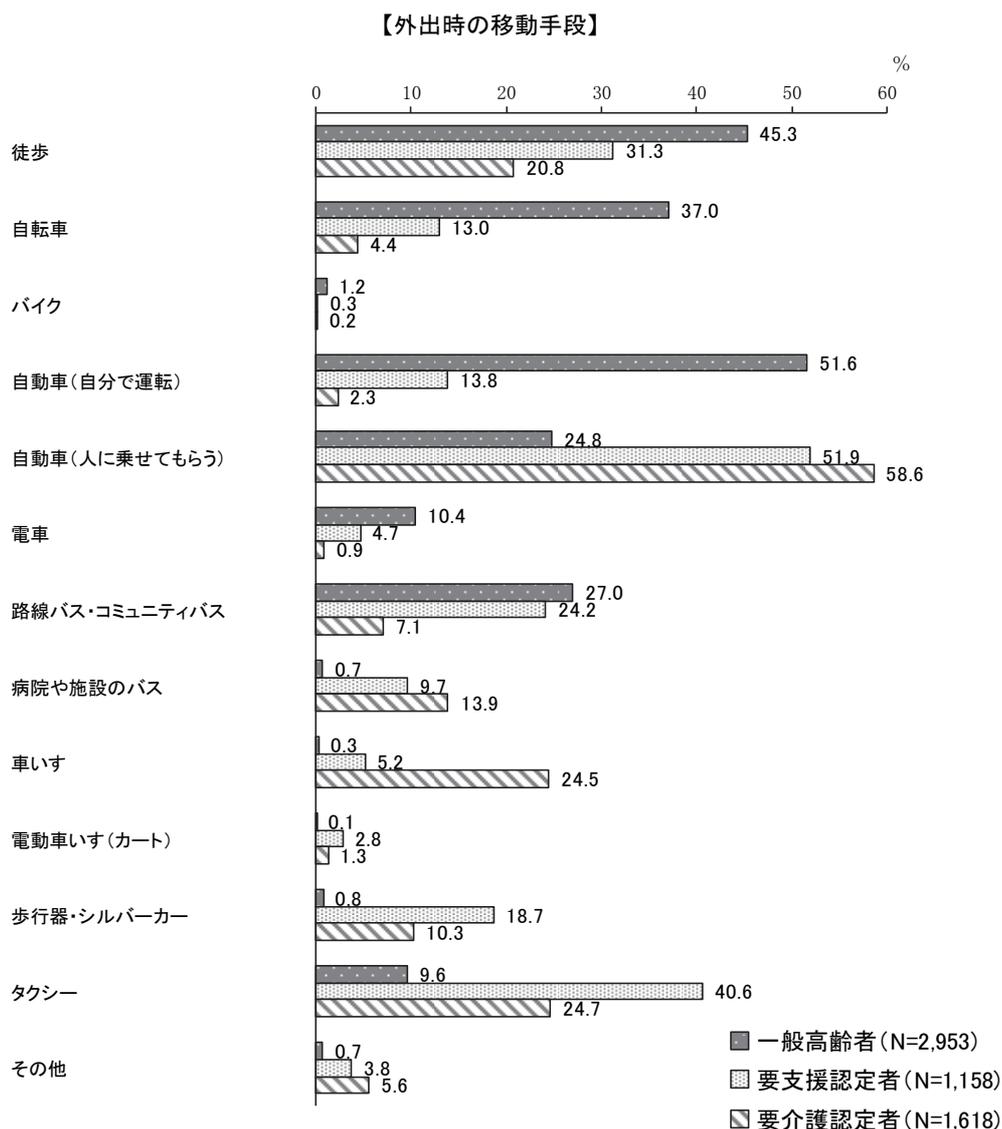
前回調査と比較すると「認知症の予防について」は6.8ポイント、「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」が0.6ポイント増加している一方で、それ以外の項目すべてが低くなっています。

【健康について知りたいこと（一般高齢者・過去の調査との比較）】



3. 外出時の移動手段

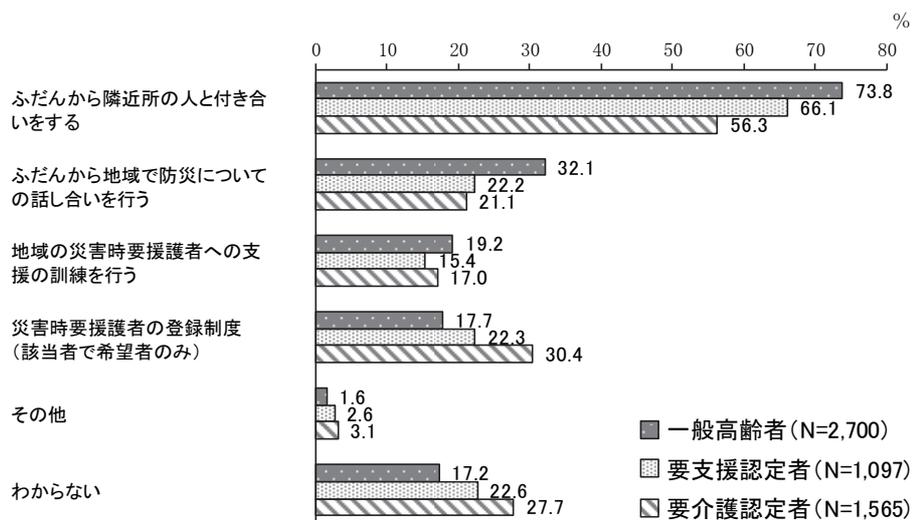
外出時の主な移動手段について、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」「徒歩」「自転車」、要支援認定者は「自動車（人に乗せてもらう）」「タクシー」「徒歩」、要介護認定者は「自動車（人に乗せてもらう）」が3割を超えています。「徒歩」「自転車」「自動車（自分で運転）」「電車」「路線バス・コミュニティバス」は、日常生活自立度が高い人ほど高くなっているのに対し、「自動車（人に乗せてもらう）」「病院や施設のバス」「車いす」は、その逆の傾向を示しています。「タクシー」は、要支援認定者が最も高くなっています。



4. 災害時に要援護者を支援するために必要なこと

災害時における身近な地域の助け合いについては、一般高齢者、要支援認定者、要介護認定者とも「ふだんから、隣近所の人と付き合いをする」が最も高くなっています。日常生活自立度が低い人ほど「災害時要援護者の登録制度（該当者で希望者のみ）」「わからない」が高く、「ふだんから、隣近所の人と付き合いをする」「ふだんから地域で防災についての話し合いを行う」が低くなっています。

【災害時に要援護者を支援するために必要なこと】



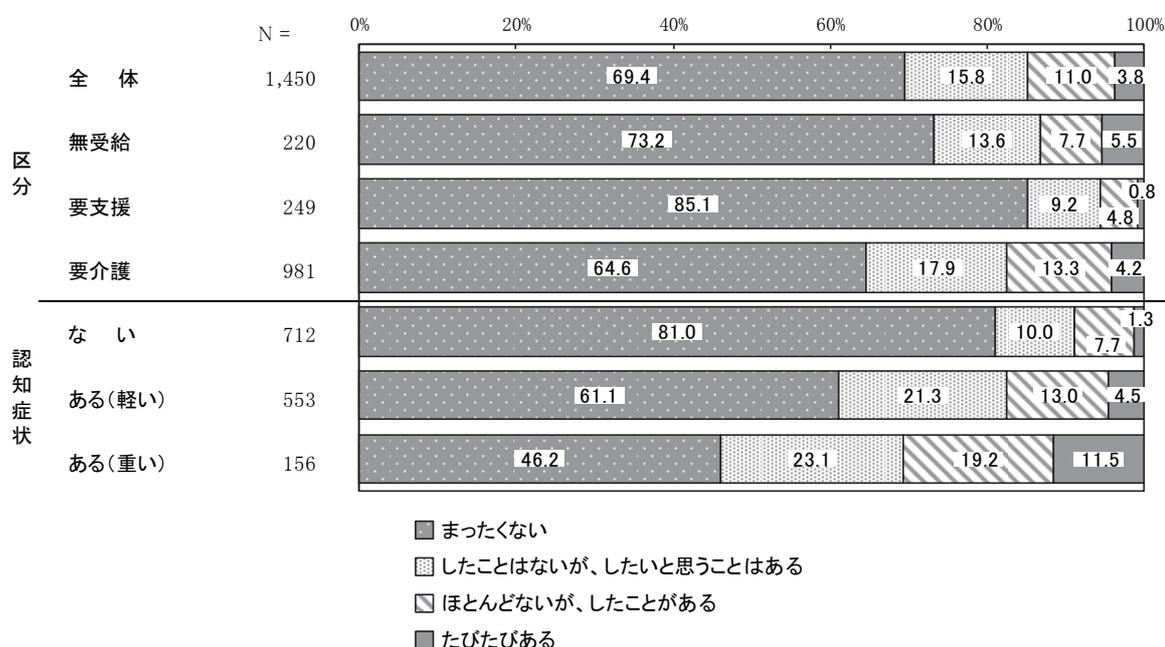
5. 高齢者虐待

(1) 虐待の自覚

居宅要介護・要支援認定者の介護者に虐待の有無をたずねたところ、「たびたびある」が3.8%、「ほとんどしないが、したことがある」が11.0%、「したことはないが、したいと思うことはある」が15.8%となっています。特に要介護利用者は、上記3選択肢の合計が35.4%と約3人に1人以上にもなっています。

認知症状別にみると、認知症状の重い人の介護者は、「たびたびある」が11.5%、「ほとんどないが、したことがある」が19.2%、「したことはないが、したいと思うことはある」が23.1%となっており、3選択肢の合計が5割（53.8%）を超えています。

【虐待の有無（居宅）】



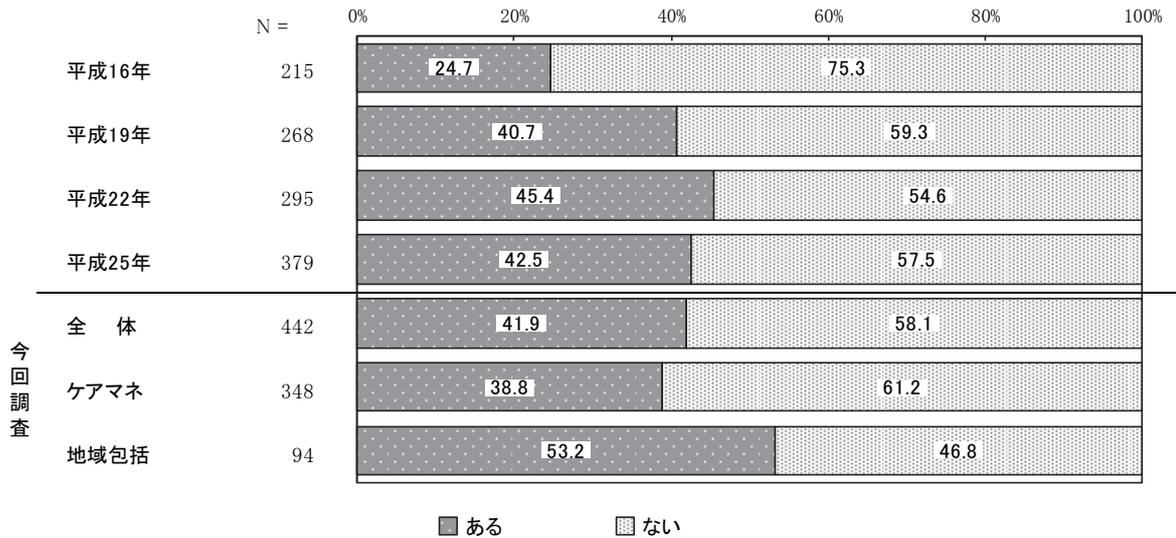
(2) 虐待事例

サービス計画作成担当者の虐待事例に関わったことの有無については、「ある」が41.9%、「ない」が58.1%となっています。

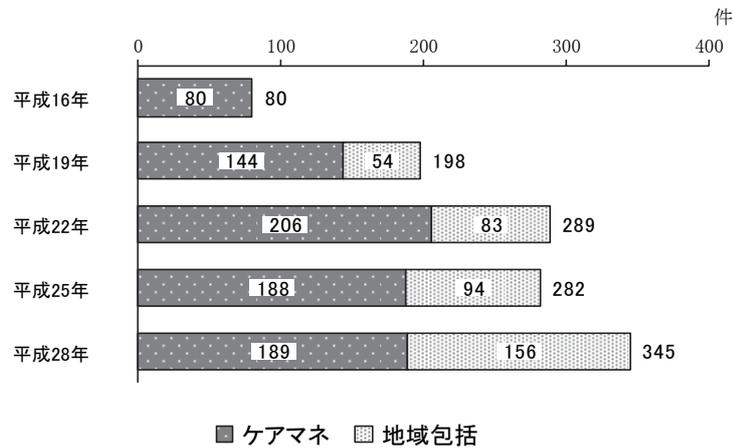
前回調査と比べると、「ある」と回答した人はやや減少しています。

経年比較でみると、今回の調査では比率はやや減少したものの、虐待事例件数は増加しています。

【虐待の疑われるケースに関わったことがあるか（サービス計画作成者・過去の調査との比較）】

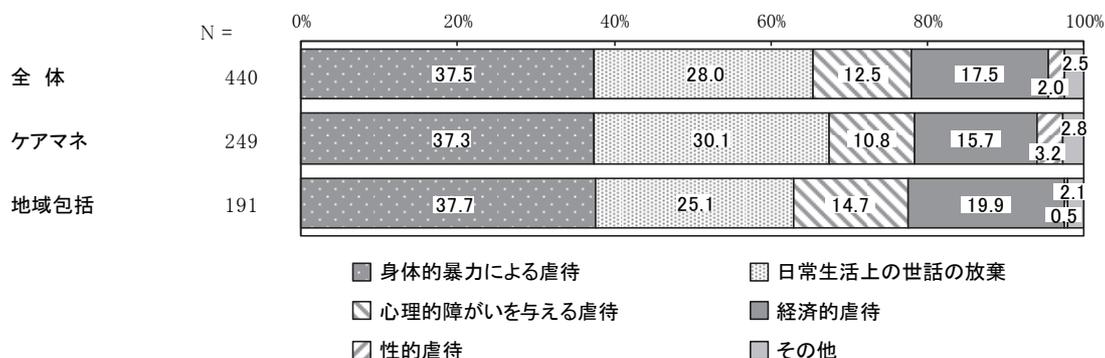


【虐待事例件数（サービス計画作成者・過去の調査との比較）】



虐待の分類別の件数については、総件数 440 件中、「身体的暴力による虐待」が 37.5%、「日常生活の世話の放棄」が 28.0%、「経済的虐待」が 17.5%、「心理的障がいを与える虐待」が 12.5% となっています。

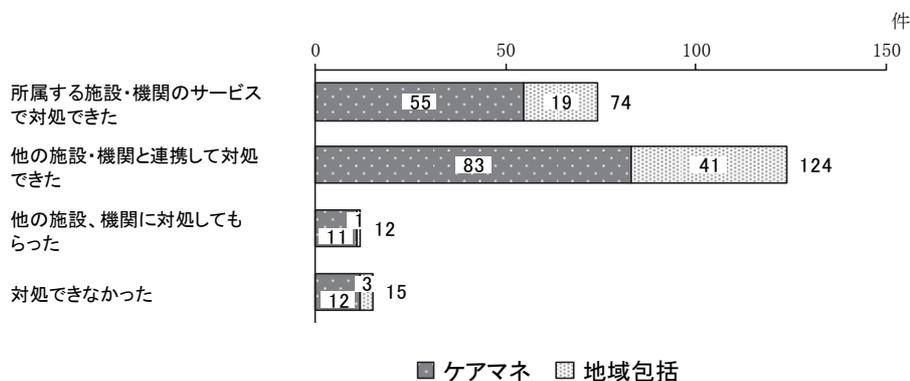
【虐待の疑われるケースの分類別件数（サービス計画作成者・過去の調査との比較）】



(3) 虐待事例への対処

虐待の疑われる事例への対処方法については、「他の施設・機関と連携して対処できた」が 124 件、「所属する施設・機関のサービスで対処できた」が 74 件、「他の施設・機関に対処してもらった」が 12 件であり、「対処できなかった」が 15 件となっています。

【虐待の疑われる事例への対処方法（サービス計画作成者）】



高齢者等実態調査報告書

発行年月 平成 29 年 3 月
発 行 岐阜市
〒500-8701 岐阜市今沢町 18 番地
TEL 058-214-4141 (代)
編 集 岐阜市福祉部